

受賞者：東部地区振興協議会（山形県西置賜郡小国町）

天皇杯
受賞年：昭和58年



むらづくりの経緯

- ・冷水による灌漑や粘土質の湿田など農業上の不利に加え、昭和43年の羽越水害で甚大な被害を受け、45年に最奥地の集落(37戸)が集落移転。
→ 急激な過疎への危機感から、悪条件の克服と創意工夫のむらづくりに対する団結の機運が向上。
- ・昭和50年3月、地区の拠点施設として基幹集落センターを建設し、その周辺に順次、診療所、保育園、駐在所、郵便局などを整備。
- ・同センター建設協議会を東部地区振興協議会に改組し、各集落、生産組織、サークルなどが一堂に会して話し合いながらむらづくりを推進。

受賞当時

生産活動の特色

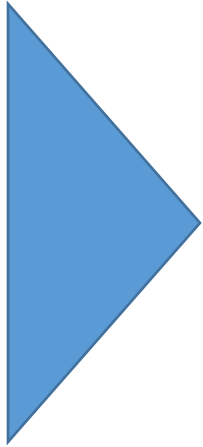
- 稲作と肉用牛の複合経営の確立
稲作は圃場整備と堆肥による土づくりで生産性を向上。
肉用牛は計画的な交配や優良牛導入で県内有数の子牛産地化。
両者の複合経営による安定的な農業経営基盤を実現。
- 畜産における自給飼料の確保
昭和56年に7人の若手畜産農家が自給飼料生産組合を結成。
国有地35haと転換畑14haで良質飼料を確保し和牛生産を集約。
- 観光わらび園による山林の集約的利用と交流促進
山菜出荷組合をわらび生産組合に改組。
昭和51年に5か所(75ha)の観光わらび園を造成、54年開園。
(全国の観光農園のさきがけとして注目。)

地域づくりの特色

- 若手グループ「サークル土」による地域活性化
青年農業者を中心に、農業と地域文化を考える取組みを展開。
若手住民の交流の場や移住者の受け入れ基盤として機能。
- 婦人グループ「わらびの会」による生活改善
農産加工実習や栄養バランスに配慮した畑作などを推進。
人間ドック受診推奨など健康づくりへの啓蒙を展開。
- 老人クラブによる地場産品の販売
つる細工などの民芸品を製造し京浜地域のデパート等へ出荷。

～受賞直後の効果～

・住民一人一人の、自ら考え行動する能力が高まり、自立心が向上した。



現在

評価ポイントの取組状況

- 学校と連携した地区文化祭、地区運動会による住民交流、山菜まつりによる地域のPR、地区住民有志が自主開催している地域サロンや地域版放課後児童室の運営支援、高齢者等の移動支援、高齢者宅の除雪ボランティアなどを展開している。
- 環境の変化に応じ、新たな地域課題に向き合いながら、少子高齢化が進むなかでも自立性の高い持続可能な地域づくりを目指して活動している。
- 【主な事業】
- ① 会員相互の親睦事業(地区運動会、ふるさと祭)
 - ② 地域の福祉向上事業(地域サロンや地域版児童室の運営支援や高齢者等の移動支援、除雪ボランティア)
 - ③ 地域PR事業(他団体と共催により実施)
 - ・山菜まつり：山菜や野菜等の直売、木工品の販売等
 - ・ダム湖周辺体験イベント：パークゴルフやカヌー、釣り堀の体験、木工教室、ダム発電所内見学等
 - ④ 町、県との連絡調整(住民要望の集約、集会等の実施調整)
 - ⑤ その他地域活性化事業(指定管理施設の運営)

今後の展開

- 少子高齢化に対応するため、福祉対策の充実と世代間交流の促進に軸足を置いた活動を展開する予定。
- 地域を取り巻く環境の変化が著しいことから、常にその時々々の地域課題に正面から向き合い、知恵と力を出し合いながら、常に変化を厭わず柔軟に活動を展開していく。

受賞者：黒磯市新しいむらづくり推進員会議

栃木県那須塩原市
(旧：黒磯市)

内閣総理大臣賞
受賞年：昭和58年



むらづくりの経緯

- ・農村集落の混住化や過疎化、加えて米や牛乳の生産調整の強化などの農業・農村を取り巻く問題は年々大きくなっていた。このような状況において、非農家を交えて郷土の再建をしようという機運が各集落で高まり、市内106の各集落が座談会を開催。
- ・この座談会を受けて「集落内および集落の範囲を越えた問題について自主的な村づくりをしていこう」という機運が高まり、集落の話し合いを基礎において地域全体でむらづくりにとりくむ「黒磯市新しいむらづくり推進員会議」が設立された。

受賞当時

生産活動の特色

- 農業改良普及所の協力を得て、地域別に営農類型が決定され、約200の営農集団が組織され、大規模酪農経営や新規作物の導入など県下でも高所得農業地域となっている。
- 生産コストの低減、生産効率向上のため各集落の推進員が話し合い、営農組合や農業機械銀行を設立するなどの役割を果たしている。また、農業後継者の育成にも大きく貢献している。

地域づくりの特色

- 生活改善クラブや農協婦人部と一体となり生活改善の運動を展開。また、市民農園を5ヶ所開設し、一般市民との交流に寄与している。
- 花いっぱい運動や集落美化運動を進め、地域の環境美化を進めている。



畜産の振興



伝統文化の継承

現在

評価ポイントの取組状況

- 106集落の106人の推進員による推進会議の合意により集落活動を実施
→当時の黒磯市は、市町村合併により那須塩原市となったため、名称を「那須塩原市活力あるむらづくり推進員」に変更した。153集落の153人の推進員がおり、現在も地域と行政を繋ぐとりまとめ役として機能している。
- 推進員を中心とした話し合いのもと、安定した農業経営に向けた活動や生活環境の整備を推進
→安定した農業経営の実現に向けて、農業全般に関する情報を地域内農業者へ周知・連絡するなど行政と連携した活動を実施している。

今後の展開

- 引き続き行政と連携した活動を実施していく予定である。